

創立 50 周年記念式典における高見澤会長の式辞を掲載します。

<式 辞>

本日は、一般社団法人長野県砂利砕石業協会の創立 50 周年記念式典を開催いたしましたところ、ご来賓の皆様方には時節柄ご多用のところご臨席を賜り、誠にありがとうございます。高い席からでございますが御礼申し上げます。

取りまく環境が厳しい中、ここに創立 50 周年を迎えることができましたのも、国、県等の関係機関の皆様、当協会の創立、運営に携わってきた多くの先輩の皆様、各地区組合の役職員の皆様、並びに本日ご臨席を賜りました皆様の絶大なご支援の賜物であり、この場をお借りしまして心から厚く御礼申し上げます。

当協会の歴史を振り返ってみますと、前身は昭和 41 年 9 月に中信地区の犬飼武雄さんの呼びかけにより長水、上高井、大北、上伊那、飯伊、木曾、富士見、安筑の 9 組合により設立された長野県砂利組合連合会であります。

その後、昭和 44 年 3 月に社団法人として認可をいただき長野県砂利協会が誕生いたしました。

この頃は、日本中が高度経済成長の波に乗って、経済が大きく発展し、公共によるインフラ整備や民間による建設需要が大きく増大する時代背景の中で、昭和 43 年には、砂利採取業務主任者制度が発足し、新砂利採取法の施行によって、県内には 463 社の登録業者が誕生いたしました。

また、昭和 45 年には、会員の経済的地位の向上を目指すなどを目的に、長野県砂利事業協同組合連合会が設立されました。

昭和 46 年 5 月には、日本砕石協会長野県支部との合併により、社団法人長野県砂利砕石業協会が設立されましたが、その後、平成元年になり、砕石工業組合の設立により砕石業務を移管することになりました。

昭和 62 年には、長野市若里の現在地に砂利砕石業会館を建設し事務局が移転いたしました。

その後、昭和から平成へと年号が変わる頃には、長野県内におきましては、高速道路の延伸や北陸新幹線建設工事、長野冬季オリンピック関連事業等のインフラ関連事業によって砂利業界も発展を続けておりましたが、平成 10 年に経済成長率が 23 年ぶりのマイナス成長となって以降、日本経済全体が厳しい状況から抜け出すことができず、当業界も影響を受けて砂利出荷額は大きく

減少が続くこととなりました。

平成16年に、今後の業界活動を検討するために「ビジョン策定特別委員会」による検討を行い「共同販売制度の確立」に向けた答申を受けて、このビジョンを具体化するための検討委員会で協議を進めたところであります。

平成19年には、骨材団体として要望を続けておりました「長野県土木工事における県内産資材の優先使用」が、顧問の県議さん方のお骨よりによって、工事発注時の特記仕様書へ記載されるようになりました。

その後、平成25年には公益法人改革により、一般社団法人へと名称が変わり、現在86社の会員による組織として今日を迎えております。

私共は、50年の間、業界の堅実な発展を図り、もって社会公共の福祉増進に寄与することを目的に、幾多の困難な問題も団結と協調の精神でこれを克服しながら、社会資本の整備に欠かすことのできない良質な骨材を安定的に生産し供給するという使命を果たしてまいりました。

ご案内のとおり、当業界を取り巻く状況は、従事者の高齢化対応でありますとか原石の確保など、大変厳しいものがあります。

私共は、この直面する状況を乗り越えるべく創立50周年を一つの大きな節目として、総ての会員が一致団結して、協調の精神で、当業界が担う社会的な使命を果たすべく、努力してまいる所存でありますので、今後とも皆様方のより一層のご指導とご支援を切にお願い申し上げまして式辞といたします。

平成30年5月23日

一般社団法人長野県砂利砕石業協会 会長 高見澤秀茂